Rotary District 2650

rotary youth exchange

ロータリー交換学生としての心構え

派遣学生マニュアル　②-11～18

ロータリー青少年交換プログラムの目的（１）

・募集要項　の　募集資格　にもこの記述

単なる語学習得もしくは修学目的の留学ではないことを理解し、

スポンサーロータリークラブ（および地区、日本）の代表としての自覚を持ちながら、

派遣される地域社会に柔軟に対応し、

新しいことに挑戦する意欲を備えていること。

ロータリーでは

×留学生　→　○交換学生、派遣生、受入学生

ロータリー青少年交換プログラムの目的（２）

・真の目的
　あなたが何の偏見も持たない真の国際人として、
　世界の平和に貢献してくれる

「世界の平和」と言われても…
どうすればいいか？

・派遣先で世界各地の大勢の友達を作り、友情を育てて、
　それぞれの交換学生自身が外国との友好の架け橋になる
　（ホストファミリー、ホストクラブメンバーなど関わる全ての人々と…）

そのためには…

ロータリー交換学生の使命

・日本の文化や日本について知ってもらう。

大切なことですが…ネットで調べれば何でもわかる時代。
それでも、一生懸命紹介すれば、あなたや日本に関心を持ってもらい、
あなたの熱意や人となりが伝わる。
人となりや心、味、香りなどネットでは伝わらないこともある。

◎あなたを通して、日本人について知ってもらい絆をつくる（親善大使）
◎あなたが派遣国の
　受入クラブ（メンバー）、ホストファミリー（家族）、学校（の友達、先生）
　出会う他の国の交換学生などとの絆をつくる。

（出発までの）心構え　（ずっと）

1.交換学生としての目的意識がしっかりしていて、自分から交換を希望しているか。

2.奉仕と感謝の気持ちを常に持っているか。

3.ロータリーの親善大使として、ふさわしい社交性を持っているか。

4.どの年代の人々とも打ち解けられる人柄であるか。

5.家族を愛し、家族に対して感謝の気持ちを持っているか。

6.自分の考えを明確に相手に伝える能力があるか。

7.確かな判断力で、多くの良き友人を選ぶ能力を有するか。

8.人種や国家に対し、偏見を持っていないか。

9.国際問題に興味と関心を持ち、ある程度の知識を持っているか。

1. 交換学生としての目的意識がしっかりしていて、自分から交換を希望していること

・きっかけは周りから進められても、今は、自分の意志と覚悟があること。

・１年は長いようで短い。ボーっとしている間に終わってしまう。

・言葉はコミュニケーションツール、出発前にもできるだけ準備。

・最初が肝心
　友達、お父さん、お母さんと呼んでいいか？　チャレンジしたいことを伝える。

・真面目に授業を聞く。　言葉の壁で数学以外何を言ってるかわからない。

・課外活動・奉仕活動に積極的に取り組む。

・出発日から、毎日、日記を書く。（あとで役に立つ）

2. 奉仕と感謝の気持ちを常に持っていること

・ロータリーの青少年交換プログラムは全てがボランティアで行われている。
多くの人の善意の気持ちによって、あなたの交換が存在している。

・ロータリー交換学生である皆さんにも、同じ気持ちを持って頂きたい。
この『奉仕の気持ち』は交換生活でとても役に立ち、派遣を成功させる大きな力となります。
（他人にやさしくしてあげると、自分にも優しくしてもらえる。）

・ボランティアであなたを受け入れているホストファミリー、学校、
そして親身になって世話してくれているロータリアン、全ての人に対して
『感謝の気持ち』を持ち続けて下さい。
（口に出して言わないと伝わりにくい）

・ホストファミリーなどでのお手伝い
感謝の気持ちでの継続できる適度な「お手伝い」は、進んで申し出る。
過度な家事を一方的に押し付けられた時にはカウンセラーに相談。

3. ロータリーの親善大使として、ふさわしい社交性をもっていること

・あなたの親善大使としての役割には、例えば
日本の代表として色々な会合や会議に出席したり、
日本文化等を紹介するスピーチを依頼されたり
様々なものがあります。
時にはロータリーだけではなく、多くの団体からも要請されます。

・日本ではあまりない『パーティー』や『晩餐会』等にも招待される場合があります。
日本の代表として恥ずかしくないマナーと、
高校生らしい爽やかな社交性を身に付けておくことが必要です。
（最低限のテーブルマナー、ナイフ・フォーク、音）

・笑顔で、礼儀正しく、
（連れて行ってもらった場所などで、つまらなそうにしないで）興味をもって

4. どの年代の人々とも打ち解けられる人柄であること

・ロータリーは『大人の世界』です。
あなたは様々なロータリーの例会や会合に出席し、大勢のロータリアンと接することになります。
あなたのクラブカウンセラーやスクールカウンセラー、ホストペアレンツも『大人』です。

・派遣中に出会う大人は、日本の大人のように、あなたを子供扱いにしません。
あなたの両親に対する今までの『甘え』は、派遣先では通用しなくなる。

・派遣先で出会う人は、大人ばかりではありません。
例えば、ホストファミリーに小さな子供がいたら、兄であり姉として、兄弟の面倒を見ることをホストペアレンツは期待するでしょう。（自分の子供と仲良くしていると親もうれしい）

別のホストペアレンツは、あなたにとっては、おじいさんやおばあさんのように比較的年齢の高い人達かもしれません。

・どの年代の誰とでも心から打ち解けられる人柄が必要になるのです。

5. 家族を愛し、家族に対して感謝の気持ちを持っているか。

・派遣中に日本の家族のことを考えない交換学生はいません。
誰でも家族と遠く離れて暮らしてみて、初めて家族のありがたさを実感します。

・派遣先では、あなたの本当の家族以上に、HFに対して感謝しなければなりません。
常に感謝の気持ちを持つだけでなく、それを『言葉』で伝える技術を身に付ける。
アメリカからの交換学生は、その日にホストファミリーが自分にしてくれた何かほんの小さなことでも思い出して、寝る前に必ず『今日は、何々をしてくれてありがとう』と言いました。
「彼の感謝の気持ちが伝わりとても嬉しかった」とそのホストファミリーは話していたそうです。

・ホストファミリーはあなたを家族の一員として迎えるため、精一杯努力している。
それに対して『何の反応も』示さなければ、『快適ではない』という答えと受け取る。
いつも一緒に過ごしていると、小さな感情のズレや、些細な事で傷つく事が有るかも知れません。
そんな時『感謝の気持ち』を持っていれば、やり過ごす事が出来ます。
（夕食後など、家族と過ごす時間、すぐに自分の部屋にこもらない。適度なくっ付き具合）

・あなたの両親の苦労をもう一度考え、改めて感謝の気持ちを持ち、伝えて下さい。

6. 自分の考えを明確に相手に伝える能力があるか。

- 『言葉は手段であり、道具である』
  自分の意思を相手に伝えるのは、言葉しか有りません。
  しかし自分の気持ちを理解してもらうことは、たとえ日本語でも難しいことです。
  まして、最初の頃の単語力の乏しい時にあなたの気持ちを相手に正確に伝えるのは至難の業です。

- コミュニケーションしようとする熱意と努力を見せる。
  英語でさえ難しいのに、新しくチャレンジする国の言葉では…
  うまく答えられなくても、黙ってうつ向かないで、
  まずは、英語で、
  それでもダメなら身振り手振りでも伝えようとする。（翻訳アプリ）

- 話についていけなくなって、わかった振りをして、話が進むと、追い込まれる。
  聞き取れないない時は、もう一度お願いする。知らないことの知ったかぶりはバレる。

- 派遣国の言葉を勉強する努力をする。
  日本に来る派遣生が、日本語を勉強しようとしなかったら、受入側はがっかりする。

6-1. 交換学生の3つのキーワード

・交換学生にとって必要な言葉が3つあります。
『THANK YOU』　感謝の気持ちを表現する。
『PLEASE』　何かを頼むときに必ず使う。
『EXCUSE ME』　相手を傷つけないように思いやる言葉

【否定疑問文への返答】
日本語と英語では否定疑問文への「はい」「いいえ」が逆になってしまう。
英語では（全体の言葉でなく）内容を肯定する場合はYes!、否定する場合はNo!
Don't you like sushi?　(寿司は好きじゃないんですか?)　に対して

肯定する(好きである)場合
日本語:　いいえ、好きです。
英語　:　はい、好きです。　　Yes , I do (like sushi.)

Yes，No　だけでなく
文章で答えると誤解されにくい

否定する(好きではない)場合
日本語:　はい、好きではないです。
英語　:　いいえ、好きではないです。　No, I don't (like sushi.)

7. 確かな判断力で、多くの良き友人を選ぶ能力を有する事

・世界中どこの学校にも『あまり良くないグループ』は存在します。
派遣先の町で生まれ育っていないあなたが『誰が良くて、誰が悪いか』を判断することは難しい。
『良くないグループ』であることに気が付かず、ホストファミリーやスクールカウンセラーに注意されても近づいていき、とてもひどい目にあった交換学生もいます。

ホストファミリーやカウンセラーがいつもいるとは限りません。
最終的にあなたの『確かな判断力』が必要となります。
友達を作ることは大切ですが、相手をよく見極める判断力がより必要となります。

【　ロータリーのルール　】ロータリーでは、国際的に次の4つを禁止しています。『ロータリーの4Dルール』。

1. DRIVE の禁止。 自動車の運転や、自動車だけでなく、オートバイ・スノーモビル等、エンジンやモーターが付いているもの全ての運転を禁止しています。
2. DRINK の禁止。 交換学生は、どんな事情があるにせよ、一切のアルコール類を飲むことが禁止されています。また、喫煙も禁止しています。
3. DRUG の禁止。 一切の麻薬・大麻等の使用、所持を禁止しています。これに違反しますと、受入国で逮捕され監禁される恐れがあります。一部の地区では合法な薬物もありまいが、交換学生は一切、手を出してはいけません。
4. DATE の禁止。 一切のデート、恋愛関係、セックスを禁止しています。

4Dルールを破りますと、即、強制送還となります。受入国の法律を守らなければいけないことは、言うまでもありません。

8. 人種や国家に対し、偏見を持っていないこと

・日本は単一民族国家と言われます。

日本に住んでいる人は、皆が同じ髪の色をして、同じ顔の形で、同じ肌の色をしています。
ところが、あなたが派遣される国は違います。

・近くに日本からの交換学生や日本人がいても頻繁に接触しない。

日本人同士で会っていると楽ですが、せっかく異なる環境に来ているのが薄くなります。

・あなた自身から、偏見を持たないようにしましょう。

交換中、想像している以上に、人種や国家間の問題が、あなたの回りに起こるかもしれません。

あなた自身が、街を歩いている時など、一部の心無い人から偏見を持たれることにも注意してください。

9. 国際問題に興味と関心を持ち、ある程度の知識を持っている事

・派遣先で、あなたは日本や世界の出来事に対して意見を求められるでしょう。
海外の高校生は、日本の高校生以上に国際問題や政治問題に関心があり、
誰もが自分の意見を持っています。
今起こっている世界の問題に関心を持ち、世界の人達の考え方を知り、
国際人としてのあなたの将来に役立てるようにして下さい。

しかし、宗教や政治など、高度な判断と相当な語学力を要する分野では、
発言は慎重にしなければなりません。
（海外の方々は宗教に対しとても真剣な方が多いです。）

自分が知らない事は『すみません。私は知らないのです』と答えることも
自分の意思を伝える一つであるということを忘れないで下さい。

・ロータリークラブは特定の宗教や政党と関係のない国際的な奉仕団体です。
宗教や政党の布教や支持活動を目的としておらず、中立性を基本原則としています。

9-1. 強い精神力を養う

・派遣生活中に起こる問題を全部想定して解決を考えるのは不可能。
交換学生として、心掛けなければならない事は、
『どんなトラブルにも対処できる強い精神力を養うこと』。
トラブルから逃げたり、パニックに陥っていても、何の解決にもなりません。

『友達が出来ない。誰も話しかけてくれない』と悩んでいるのではなく、
自分から話しかけて、自分から友達を作るように努力しなければ問題は解決しません。

ホストファミリーとうまくいかない。と悩んでいる暇があったら、
『なぜうまく行かないのか？　解決するためにはどうすればいいのか』を考えることのほうが
遙かに重要であり、解決への近道です。

・自己解決できない問題、青少年保護に関する問題は、カウンセラーに相談
ホストクラブのカウンセラーに相談。
この青少年交換委員会に相談。

9-2. 基本は人間関係

・すべての問題は、『人間関係の問題』

ホストファミリーとのトラブルや、学校での友人関係のトラブルなど、『人間関係の問題』。

日本でなら簡単に解決できる問題や、あるいは問題にもならないことが、派遣先では語学力の不足が生む誤解や、習慣の違い、考え方の違いにより一層複雑にし、問題を大きくしていきます。

ましてや、克服できる精神力が備わっていないとしたら解決は更に遅れるでしょう。
今のうちから強い精神力を養うように努力して下さい。
ROTEXやロータリアンの話を良く聞いて、青少年交換とはどんなものかを認識してください。

有意義で楽しい１年となりますように…

・委縮してしまうような覚悟の話が多かったですが…

・家庭も学校も言葉も友達も街も、全てが異なる
（基本的には）すばらしい「異世界の体験」が待っています。
あなたをトラブルに巻き込もうと考えている人は誰もいないどころか、
ロータリーやホストファミリー、学校など関係者全員が、
どうしたらあなたに有意義で楽しい派遣生活を経験してもらえるかを考えています。

また訪れたくなるような、人々とのつながりや、かけがえのない体験をするため、
いろいろなことを学ぼうとする自分自身の努力や積極的な行動が大切です。